



通信

HP 学校だより
R6.3.21
NO.44
文責 伊藤美佳



第115回卒業生の巣立ち

少し肌寒さは残りましたが、前日の強風が嘘のような穏やかなお天気の中、第115回卒業証書授与式が行われ、60名の卒業生が笑顔で豊坂小学校を巣立っていきました。

今年度はアフターコロナということで、昨年よりも多くのご来賓の皆様にお越しいただき、4年生以上の在校生も参加しての卒業式を挙行することができました。卒業生一人一人が呼名されると元気よく返事をし、緊張した面持ちで卒業証書を受け取りました。その足で、保護者の方々のもとに行き、少し照れながら一言添えて卒業証書を手渡している風景は、心温まるものでした。

ご来賓の皆様より、ご祝辞をいただいた後、卒業生、在校生による「お別れの言葉」では、多くの思い出を語るとともに、心のこもった歌を会場に届けてくれました。多くの人々に見守られ、多くの人とかかわることで子どもたちが成長してきたことが感じられた瞬間でした。

主体的、自主的という言葉が合言葉に、少しずつ自分たちで考え、行動することをめざしてきた卒業生60名が、最後に姿で示してくれました。

巣立っていった豊坂っ子の未来に 幸多かれ！

令和5年度 から 令和6年度 へ

明日は、令和5年度修了式が行われます。子どもたちは、担任の先生から通知表をいただき、一年の成長を実感したり、現在の学級とのお別れに寂しさを感じたりすることと思います。現学年の修了を実感するということは、寂しいことでもあり、次への期待に胸膨らむことでもあります。ぜひ、令和5年度の自分を振り返り、次年度の目標を決め、そのために自ら一歩を踏み出してほしいと願っています。

子どもたちには常々「あこがれ」の「あいさつ・ありがとう」「困っていると伝えられる・困っている人を助けられる」「がむしゃらに取り組める」「冷静に判断できる」ことをめざしてほしいと伝えています。予測不可能な世の中だからこそ、「自分で考える」ことができ、最適解を見つけられる子どもたちになってほしいと考え、「あこがれ」を伝えています。コロナ禍で人と人の距離が遠くなり、身近な「あこがれ」の存在ができにくくなっているのではと心配した時期もありました。しかし、今年度卒業した6年生に1年生の子が「自分たちが6年生になったとき、今年の6年生のようになりたいな」と伝えたそうです。深くかかわったことで、「あこがれ」が連鎖していることがとてもうれしかったです。子どもたちに負けてはいられません。子どもたちを取り巻く多くの大人が子どもたちの「あこがれ」となれるように心掛けていきたいです。また、豊坂っ子には、「自分で考え、行動し、よりよい生き方を追求できる子ども」たちになってほしいです。そのために、周囲の大人は、「転ばぬ先の杖」を出すのではなく、「どうしたい？」の言葉がけで、子ども自身で最適解を見つけ進んでいけるようにサポートできればと考えています。

この一年を通して、保護者の皆様、地域の方々に支えられて豊坂小学校の子どもたちは成長しました。本当にありがとうございました。次年度も引き続き、よろしく願いいたします。